

# 歴史的事象の意味を より広い視野から考える力を育てる指導の工夫

—— 問題解決的な学習過程に 『ステップアップ型資料』 を取り入れて ——

長期研修員 齊藤 好子

## 《研究の概要》

本研究は、小学校歴史学習において、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることを目指したものである。具体的には、問題解決的な学習過程の中の「つかむ」「追究する」「考え・まとめる」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』『事実を捉えることができる資料』『既習内容を揺さぶることができる資料』『既習内容を深化・発展することができる資料』を学習課題に即して段階的に取り入れることにより、徐々に児童の考える力を育て、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることを目指していくものである。

**キーワード** 【社会—小 より広い視野から考える力 問題解決的な学習過程 ステップアップ型資料】

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編では、能力に関する目標に位置付けられている社会的な思考力について、第6学年では、「社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てること」を求めている。また、第6学年の内容(1)には、「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにすること」が示されている。このことから、歴史学習において、単に過去の出来事を理解するだけでなく、現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤がどこにあるのかを考えたり、過去の出来事を現在及び将来の発展に生かすことを考えたりすることが重要となる。

これらを受け、はばたく群馬の指導プランでは、より広い視野から社会的事象の特色や意味を捉えるために「問題解決的な学習過程」を一単元の進め方の基本として示している。さらに、平成26年度群馬県学校教育の指針では、問題解決的な学習過程を通して思考力を育成することを目指し、「単元の導入で児童が疑問や驚きを持てる資料を提示し、その疑問や驚きから単元を貫く課題を設定すること」「読み取らせることを明確にして資料を提示していくこと」を社会科の指導の重点として掲げている。

協力校では、授業の様子や、児童アンケート(平成26年7月第6学年51名実施)より、歴史的事象を現在及び将来の自分たちの生活と関わらせて考えられる児童が少ないと言える。例えば、授業では、玉音放送を聞いている子どもたちの写真から当時の小学生になったつもりで太平洋戦争が終わった時の気持ちを考える活動において、「戦争が終わってよかった」という一面的な感想にとどまり、戦争から学んだことを現在及び将来の生活への発展に生かすことを考えるなど、戦争の意味をより広い視野から考えた児童が少なかった。アンケートでは、「歴史の授業で学んでいることは、現在及び将来に役立つと思うか」の質問に対して、「役立つ」と答えた児童が全体の約76%であったが、理由を見ると、「テストや受験に役立つから」「家族でクイズをする時、役立つから」という歴史的事象を現在及び将来の生活の発展に生かすことを考えているとは言い難い内容であった。その一因として、児童が「なぜだろう」という疑問から課題を持ち、解決の手がかりとなる資料を効果的に活用できていなかったことにあると考える。その結果、歴史的事象が現在の生活とどのようにつながっているのか、さらには、過去の出来事を現在及び将来の生活の発展へとどのようにつなげていくのかを考える力である歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができなかったと考える。

そこで、その力を育てるために、問題解決的な学習過程に資料を効果的に取り入れていくことが重要であると考え。具体的には、問題解決的な学習過程に、学習課題に即して段階的に考える力を育てることができる『ステップアップ型資料』を取り入れることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てていくことができると考える。まず、学習過程の「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を基に、児童が問題意識を持って単元を貫く課題を設定し、答えを予想することができるようにする。次に、「追究する」過程において、二段階に資料を取り入れる。前半、『事実を捉えることができる資料』を基に、予想を検証して事実を明らかにしていく。後半、『既習内容を揺さぶることができる資料』として、『事実を捉えることができる資料』とは対比する資料を取り入れ、比較・関連付けることにより、学んだ歴史を多面的・多角的に考えていく。最後に、「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、歴史的事象と現在の自分たちの生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることにより、より広い視野から考える力を育てていく。

以上から、問題解決的な学習過程に、『ステップアップ型資料』を取り入れていくことにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校社会科の歴史分野において、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れていくことの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究仮説（研究の見通し）

#### 1 単元を貫く課題を設定し、答えを予想すること

「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を基に、問題意識を持つことにより、単元を貫く課題を設定でき、課題に対する答えを予想することができるであろう。

#### 2 歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えること

「追究する」過程において、前半、『事実を捉えることができる資料』を基に、予想を検証して事実を明らかにし、後半、『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、比較・関連付けて多面的・多角的に考えることにより、歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えることができるであろう。

#### 3 歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てること

「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、「追究する」過程で学んだ歴史と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 歴史的事象の意味をより広い視野から考える力とは

小学校学習指導要領解説社会編では、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を、歴史上の主な事象に関わる先人の業績や代表的な文化遺産が、我が国の国家・社会の発展に果たした役割や意味を考える力としている。本研究では、「歴史的事象が現在の生活とどのようにつながっているのか、過去の出来事を現在及び将来の生活の発展へとどのようにつなげていくのかを考える力」と捉えた。

##### (2) 問題解決的な学習過程とは

はばたく群馬の指導プランでは、社会科の問題解決的な学習過程とは、単元指導計画の中の学習過程において、学習課題に即した資料を基に、事象同士を比較・関連付け・再構成して考えを深める学習としている。本研究では、その進め方を基本とし、『ステップアップ型資料』を取り入れることにより、主題に迫ることができるかと捉えた。「つかむ」過程では、教師の指導のもと、資料を基に児童主体で単元を貫く課題を設定し、答えを予想する。「追究する」過程では、前半、資料を基に事実を明らかにし、後半、資料を活用して、前半で明らかになった事実と比較・関連付け、揺さぶることにより、多面的・多角的に考える。最後に、「考え・まとめる」過程では、資料を基に歴史的事象の意味についてより広い視野から考える力を育てていく。

##### (3) 『ステップアップ型資料』とは

『ステップアップ型資料』とは、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために、問題解決的な学習過程に学習課題に即して段階的に取り入れる資料である。まず、「つかむ」過程では、教師の指導のもと、児童主体で単元を貫く課題を設定して予想するために『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れる。次に、「追究する」過程では、前半、事実を明らかにするために『事実を捉えることができる資料』を取り入れる。後半、歴史的事象を比較・関連付け、多面的・多角的に考えるために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れる。このように、二段階に資料を取り入れることにより、歴史的事象がその時代に与えた役割や影響について考える。最後に、「考え・まとめる」過程では、歴史的事象と現在の生活や、現在及び将来の発展とのつながりを考えるために、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り入れ、主題に迫っていく。なお、3ページの図1は、小学校6学年「世界に歩み出した日本」の小単元で授業実践した

際に、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れた単元構想例である。

過程	資料の種類	『ステップアップ型資料』	資料活用の①目的と②選定のポイント
つかむ	① 疑問や驚きを持つことができる資料	① (単元を貫く課題) 日本はなぜ外国から認められるようになったのだろうか。	① 「なぜBになったのか」の単元を貫く課題を設定し、予想するために資料を使うことが目的 ② AとBのように、対比する出来事に対して疑問や驚きを持つことができる資料を選定
	② 事実を捉えることができる資料	② (学習課題) 世界で活躍した日本人について調べよう。	① 予想を検証して事実を明らかにするために、資料を使うことが目的 ② 知識(日本人の国際的な活躍)を得ることができる資料を選定
追究する	③ 事実を捉えることができる資料	③ (学習課題) どのようにして外国人を裁けないという不平等条約をなくすことができたのだろうか。	① 予想を検証して事実を明らかにするために、資料を使うことが目的 ② 知識(領事裁判権の撤廃)を得ることができる資料を選定
	④ 事実を捉えることができる資料	④ (学習課題) 日清戦争と日露戦争について調べよう。	① 予想を検証して事実を明らかにするために、資料を使うことが目的 ② 知識(日清戦争と日露戦争)を得ることができる資料を選定
既習内容を揺さぶることができる資料	⑤ 事実を捉えることができる資料	⑤ (学習課題) どのようにして不平等条約の改正が達成されたのだろうか。	① 予想を検証して事実を明らかにするために、資料を使うことが目的 ② 知識(日本の領土の広がり、関税自主権の回復)を得られる資料を選定
	既習内容を揺さぶることができる資料		① ●と★を比較・関連付けることで●の理解を揺さぶり、多面的・多角的に考えることが目的 ② ★には●の事実と対比する内容の資料を選定
既習内容を揺さぶることができる資料	⑥ 事実を捉えることができる資料	⑥ (学習課題) 明治時代の産業の発展について調べよう。	① 予想を検証して事実を明らかにするために、資料を使うことが目的 ② 知識(産業の発展)を得ることができる資料を選定
	既習内容を揺さぶることができる資料		① ●と★を比較・関連付けることで●の理解を揺さぶり、多面的・多角的に考えることが目的 ② ★には●の事実と対比する内容の資料を選定
考え・まとめる	⑦ 既習内容を深化・発展することができる資料	⑦ (学習課題) 学習したことと現在とのつながりについて考えよう。	① 現在及び将来の生活とのつながりを考えるために資料を使うことが目的 ② 児童に身近なものや、先人の願いが現在の生活の改善へとつながっていると考えやすい資料を選定 ※第8、9時は、単元の資料を活用して単元のまとめの新聞作りを行い、単元全体を振り返る。

図1 問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れた単元構想例

## 2 先行研究とのつながり

群馬県総合教育センター長期研修員の先行研究(2011)には、歴史的事象の意味を考える力を高めるために、学習の手引き書を使用しながら、児童主体で設定した学習課題について、資料を基に解決をしていく問題解決的な学習過程を取り入れた研究がある。その中で、単元を貫く課題の例と、その基となる児童の疑問を生む資料を開発する必要性が課題として挙げられていた。太田市教育研究所社会科学班の研究(2008)には、社会的事象と自分の生活を関連付けて捉える力の育成を目指して、問題解決的な学習過程に身近な地域資料を効果的に活用していく授業実践を行っている。その中で、「つかむ」過程における資料の選定とタイミングや、単元のねらいを達成するために学習過程に応じて資料を選定していくことが課題として挙げられていた。

以上のように、先行研究において、児童の考える力を育てるために、問題解決的な学習過程の中に効果的に資料を取り入れていくことが重要であるとともに、課題であることが挙げられていた。したがって、問題解決的な学習過程の授業を実践し、その中にどのような資料を、どのように取り入れていくかを研究していくことは、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために有意義なことだと考える。

## 3 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 第1回目授業実践

#### (1) 授業実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第6学年 51名
実践期間	平成26年7月9日～平成26年9月8日 7時間
単 元 名	戦国の世から江戸の世へ
単元の目標	織田信長・豊臣秀吉・徳川家康により戦国の世が統一されていったことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考えようとする。

#### (2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を基に、問題意識を持つことにより、単元を貫く課題を設定でき、課題に対する答えを予想することができるであろう。	ノートの記述 (振り返り) 活動状況の観察 記録用写真 記録用ビデオ ポスター
見通し2	「追究する」過程において、『事実を捉えることができる資料』を基に、予想を検証して事実を明らかにし、『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、比較・関連付けて多面的・多角的に考えることにより、歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えることができるであろう。	
見通し3	「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、「追究する」過程で学んだ歴史と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができるであろう。	

#### (3) 抽出児童

A	歴史的事象がその時代に与えた役割や影響を考えることがやや苦手である。「追究する」過程において『事実を捉えることができる資料』を基に予想を検証し、『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用して比較・関連付けることにより、歴史的事象について多面的・多角的に考えることができるようにしていきたい。
B	歴史的事象がその時代に与えた役割や影響を考えられるが、現在の生活とのつながりを考えることが苦手である。「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して「追究する」過程で学んだ歴史と現在の生活とのつながりを考えることができるようにしていきたい。
C	歴史的事象と現在の生活とのつながりを考えることができるが、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができない。「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して、「追究する」過程で学んだ歴史と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができるようにしていきたい。

#### (4) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
信長、秀吉、家康による全国統一に関心をもち、三人の武将の業績を意欲的に調べようとしている。	戦国の世が統一されたことやそれに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを言語で適切に表現している。	戦国の世の中が信長や秀吉、家康らによって統一されていく様子について、地図や年表、絵図などの資料を効果的に活用して具体的に調べている。	信長、秀吉、家康によって全国が統一されたことが分かっている。

(5) 指導計画

学習過程	『ステップアップ型資料』			本時の問い 【丸数字は授業時間】
	資料の種類	中心となる資料名	資料の提示方法など	
つかむ	ステップ1 疑問や驚きを持つことができる資料	屏風絵：祇園祭礼図屏風 月次風俗屏風 絵図：長篠合戦図屏風絵 年表：信長・秀吉・家康の年表	○戦国時代の戦いの激しさに驚きを持つことができるように、長篠合戦図屏風絵と、室町時代の活気のある民衆の様子が表れている屏風絵を提示する。	① 長篠の戦いからどのようなことが分かるだろうか。  単元を貫く課題の答えを考えよう。
		単元を貫く課題 三人の武将の中で、全国統一の MVP は誰だろうか。 (はばたく群馬の指導プラン③「どうすれば・どちら型」)		
追究する	ステップ2	事実を捉えることができる資料	教科書資料集 ○資料活用能力を育てるために、各自で教科書や資料集を活用して調べ学習をするように伝える。	② 三人の武将の活躍ベスト3を見付けよう。
		事実を捉えることができる資料	教科書資料集 ○資料活用能力を育てるために、各自で調べたことを班ごとに出し合い、KJ法で整理するように指示する。	③ 三人の武将の活躍ベスト3を見付けよう。
		事実を捉えることができる資料	絵図：長篠合戦図屏風絵 写真：天下布武 写真：安土城跡 屏風絵：南蛮屏風 ○各自で見付けた信長の業績を集計し学級で多い業績を五つに絞る。 ○教師が提示した資料を基に、五つを一齐に調べる活動を取り入れる。 ○歴史を実感できるように、現在に残る史跡や絵を写真で紹介する。	④ 信長はどのようにして全国統一を目指したのだろうか。
		事実を捉えることができる資料	写真：大阪城 資料集：検地帳、検地の様子の絵 地図：戦国大名の地図 絵：刀符令 ○各自で見付けた秀吉の業績を集計し学級で多い業績を五つに絞る。 ○教師が提示した資料を基に、五つを一齐に調べる活動を取り入れる。 ○歴史を実感できるように、現在に残る史跡や現物を写真で紹介する。	⑤ 秀吉はどのようにして全国統一をしていったのだろうか。
		事実を捉えることができる資料	屏風絵：江戸図屏風絵 TV教材：NHK for school「関ヶ原の戦い(1:26)」 写真：江戸城の写真 ○各自で見付けた家康の業績を集計し学級で多い業績を五つに絞る。 ○教師が提示した資料を基に、五つを一齐に調べる活動を取り入れる。 ○歴史を実感できるように、現在に残る史跡や現物を写真で紹介する。 ○関ヶ原の戦いでの家康の作戦を理解できるように、テレビ教材を活用する。	⑥ 家康はどのようにして全国統一をしていったのだろうか。
		既習内容を揺さぶることができる資料	絵：長篠合戦図屏風絵と徳川氏叙任の絵を比較 ○江戸幕府の力が強かったことに気付くことができるように、二枚の資料を比較・関連付けて考えていく。	
考え・まとめる	ステップ3 既習内容を深化・発展することができる資料	実物：カステラ、ポーロ上毛カルタ 写真：日光東照宮、石見銀山(世界文化遺産) 地図：戦国大名の地図 写真：現在の東京 ○追究する過程で学んだ三人の業績と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えるための資料を提示し、一齐に調べる活動を取り入れる。 ○つながりを実感するため、児童に身近な物や実物を優先して取り上げる。	⑦⑧ 三人の武将の中で自分が選んだ MVP の武将のすばらしいところをポスターに描こう。	
<p>【歴史的事象の意味をより広い視野から考えることができた姿】</p> <p>○ポスターの記述の中に、三人の武将の業績が、その時代に大きな役割を果たしていることや、現在の生活とのつながり、その業績を現在及び将来の発展に生かすことを考えられている姿</p> <p><b>信長</b> (業績がその時代に役割や影響を与えたこと)                  堺や長崎などの港でスペインやポルトガルと南蛮貿易を行ったので、信長は大量の資金を手に入れ、武器をそろえ、強くなった。                  (業績と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながり)                  楽市、楽座のおかげで商業が発展。これからも商業を活発にし、楽しい日本にしていこう。</p>				

## (6) 第1回目の授業実践の結果と考察

- ① 「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れることで、単元を貫く課題を設定し、課題に対する答えを予想することができたか

単元を貫く課題を設定し、答えを予想するために、『疑問や驚きを持つことができる資料』として、室町時代の活気ある民衆の様子が表れている「祇園祭礼図屏風」「月次風俗図屏風」を提示した後、三人の武将が掲載され、激しい戦いの様子が表れている「長篠合戦図屏風」を提示することにより、単元を貫く課題を設定することができた。また、ほら貝を吹いて演示することにより、合戦の資料を実感を伴って見ることもできた。このことにより、既習内容から当然の出来事として読み取れる資料と、それとは対比する事柄の資料の二種類を提示すると、資料の違いから疑問や驚きを持つことができ、問題意識を持って単元を貫く課題を設定し、答えを予想することができたことが分かった。2回目の授業実践でも、このように取り入れていくことにした。

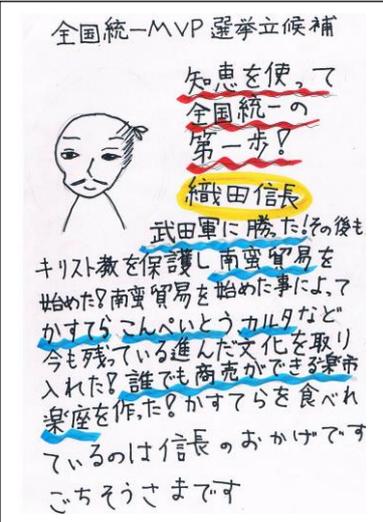
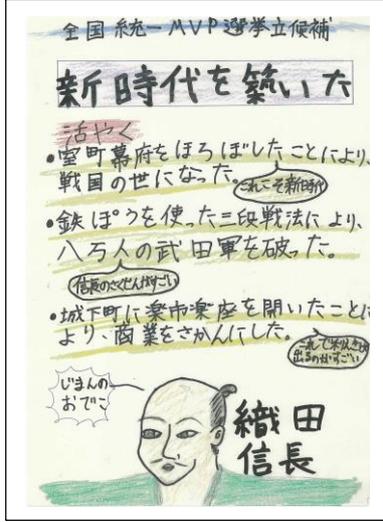
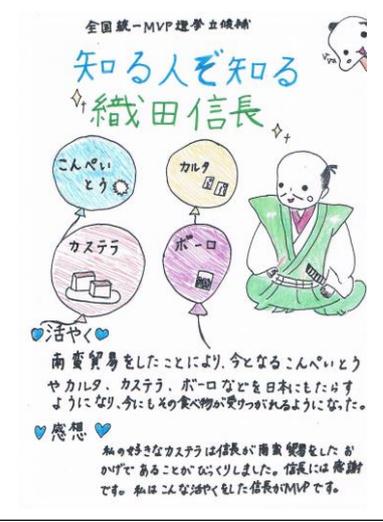
- ② 「追究する」過程において、前半、『事実を捉えることができる資料』を、後半、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れることで、歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えることができたか

「追究する」過程の前半には、予想を検証して事実を明らかにするために、『事実を捉えることができる資料』を取り入れた。実践を通して、歴史を実感できるように、史跡の写真や映像を提示すると効果的であることが分かった。「追究する」過程の後半には、前半で捉えた事実を多面的・多角的に考えることにより、三人の武将の業績が、戦国時代に与えた役割や影響を考えることができると考えた。そのために、捉えた事実を揺さぶる場面を設定し、そこに『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れることにした。その資料として、前時までに提示した『事実を捉えることができる資料』と対比できる資料を選定し、提示した。しかし、単元のまとめで取り組んだ三人の武将の MVP を推薦するポスターを見ると、武将の業績のみの記述にとどまり、戦国時代に与えた役割や影響を考えられていない児童が多かった(8ページ表1)。この原因は、『既習内容を揺さぶることができる資料』を1回しか取り入れなかったため、揺さぶりの機会が少なく、武将の業績を多面的・多角的に考えることが不十分であったためと考えられる。これらより、2回目の実践では、『既習内容を揺さぶることができる資料』を多く取り入れ、揺さぶる場を増やして多面的・多角的に考えることができるようにしていくことを改善点とした。このことにより、2回目の実践では、歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えられることを目指していくこととした。

- ③ 「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り入れることで、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができたか

「考え・まとめる」過程において、三人の武将の業績と現在の生活とのつながりや、業績と現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができる資料として、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り上げた。その資料として、食べ物など児童に親しみやすい物を取り入れると現在の生活とのつながりを考えることができると考えた。そこで、南蛮貿易により日本に入って以来、現在においても親しまれているカステラ、カルタなどを取り上げた。単元のまとめで取り組んだポスターには、業績と現在とのつながりを考えられている記述が多かった。このことから、現在の生活とのつながりを考えるために、食べ物など児童に親しみやすい物を取り上げたことは有効であったと考える。しかし、抽出児童が作成したポスターからも分かるように、武将の業績を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えられている記述がなかった(8ページ表1)。その原因は、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えるために効果的な資料を選定できていなかったことにあると考えた。そこで、それらの資料の選定に留意していくことを、2回目の授業実践の改善点とした。

表1 抽出児童におけるポスターの中の主題に関わる記述

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
		
<p><b>武将の業績が戦国時代に与えた役割や影響を考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていた記述          ・南蛮貿易を始めたことにより、カステラ、金平糖、カルタなどが日本に伝わった。          ・楽市・楽座を取り入れたことにより、誰でも商売ができるようになった。  <input type="radio"/> 考えることができず、業績のみの記述          ・武田軍に勝った。          ・キリスト教を保護した。</p>	<p><b>武将の業績が戦国時代に与えた役割や影響を考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていた記述          ・室町幕府を滅ぼしたことにより、戦国の世になった。これこそ新時代。          ・鉄砲を使った三段戦法により、八万人の武田軍を破った。信長の作戦がすごい。          ・城下町に楽市・楽座を開いたことにより、商業をさかんにした。これで利益がでるのがすごい。</p>	<p><b>武将の業績が戦国時代に与えた役割や影響を考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていた記述          ・南蛮貿易をしたことにより、今にある金平糖やカルタ、カステラ、ポーロなどを日本にもたらすようになった。</p>
<p>(分析)          信長の業績を四つ挙げる事ができたが、そのうち二つは業績のみの記述で、戦国時代に与えた役割や影響を考えることができていない。</p>	<p>(分析)          信長の業績を三つ挙げ、それらが戦国時代に与えた役割や影響を考えることができていない。</p>	<p>(分析)          信長の業績を一つ挙げ、それが戦国時代に与えた役割や影響を考えることができていない。</p>
<p><b>武将の業績と現在の生活とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていた記述          ・カステラ、金平糖、カルタなど今も残っている進んだ文化を取り入れた。          ・カステラを食べられるのは信長のおかげです。ごちそうさまです。</p>	<p><b>武将の業績と現在の生活とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていない。</p>	<p><b>武将の業績と現在の生活とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていた記述          ・カステラ、ポーロなど現在にその食べ物が受け継がれるようになった。          ・私の好きなカステラは信長が南蛮貿易をしたおかげであることがびっくりしました。信長には感謝です。</p>
<p>(分析)          信長の業績のうち、南蛮貿易によりもたらされた物が現在にもあることに感謝している記述があり、自分の生活と重ねて考えることができていない。</p>	<p>(分析)          信長の業績と現在の生活とのつながりの記述はなく、考えることができていない。</p>	<p>(分析)          信長の業績の中の南蛮貿易によりもたらされた食べ物が現在にもあることに感謝している記述があり、自分の生活と重ねて考えることができていない。</p>
<p><b>武将の業績と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていない</p>	<p><b>武将の業績と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていない</p>	<p><b>武将の業績と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</b>  <input type="radio"/> 考えることができていない</p>
<p>(分析)          南蛮貿易で入ってきた品物が現在につながっていることは考えることができたが、現在及び将来の生活の発展にまでつなげて考えることができていない。</p>	<p>(分析)          信長の業績について、自分の生活と重ねて考えることができていないため、現在及び将来の生活の発展にまでつなげて考えることができていない。</p>	<p>(分析)          南蛮貿易で入ってきた食べ物が現在の生活に受け継がれていることは考えられているが、現在や将来の生活の発展にまでつなげて考えることができていない。</p>

## 2 第2回目授業実践

### (1) 授業実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第6学年 52名
実践期間	平成26年10月24日～平成26年11月13日 9時間
単 元 名	世界に歩み出した日本
単元の目標	資料を活用して、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きを調べることを通して、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働きを考えることができる。

### (2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を基に、問題意識を持つことにより、単元を貫く課題を設定でき、課題に対する答えを予想することができるであろう。	ノートの記述(振り返り)
見通し2	「追究する」過程において、『事実を捉えることができる資料』を基に、予想を検証して事実を明らかにし、『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、比較・関連付けて多面的・多角的に考えることにより、歴史的事象について、その時代に与えた役割や影響を考えることができるであろう。	活動状況の観察 記録用写真 記録用ビデオ
見通し3	「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、「追究する」過程で学んだ歴史と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができるであろう。	新聞

### (3) 抽出児童

A	歴史的事象がその時代に与えた役割や影響を考えることが苦手である。「追究する」過程において、『事実を捉えることができる資料』を基に予想を検証し、『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用して、比較・関連付けることにより、歴史的事象を多面的・多角的に考えることができるようにしていきたい。
B	歴史的事象がその時代に与えた役割や影響を考えることができるが、現在の生活とのつながりを考えることが苦手である。「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して、「追究する」過程で学んだ歴史と現在の生活とのつながりを考えることができるようにしていきたい。
C	歴史的事象と現在の生活とのつながりを考えることができるが、現在や将来の発展の生活とのつながりを考えることができない。「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して、「追究する」過程で学んだ歴史と現在や将来の生活への発展とのつながりを考えることができるようにしていきたい。

### (4) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展や、それらに関わる人物の働きに関心を持ち、進んで調べようとしている。	我が国の国力充実、国際的地位の向上と、それらに関わる人物の願いや、それらによって人々の生活や社会が変化したことについて思考・判断したことを表現している。	日清・日露戦争、条約改正、科学の発展や、それらに関わる人物の願いや働きを地図や年表、その他の資料を活用して読み取り、新聞などにまとめている。	我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それらによって人々の生活や社会が変化したことが分かっている。

(5) 指導計画

学習過程	『ステップアップ型資料』			本時の問い 【丸数字は 授業時間】
	資料の種類	中心となる資料名	資料の提示方法など	
つかむ	ステップ1 疑問や驚きを持つことができる資料	キーワード：「大君の都」の中の言葉 風刺画：ノルマントン号事件 年表：条約改正年表 キーワード：1905年のアメリカ、ドイツの新聞記事	○疑問や驚きを持って単元を貫く課題を設定するために、江戸時代末期と明治時代初期の外国からの日本の低い評価と、明治時代後期の外国からの日本の高い評価を提示する。 ○当時の外国からの評価については、児童にとって関心の薄い内容のため、児童が興味をもつことができるように、当時の人々を演示する。	①外国からの日本の評価について江戸時代末期や明治時代初期と明治時代後期を比べよう。  単元を貫く課題の答えを予想しよう。
		単元を貫く課題 日本は、なぜ外国から認められるようになったのだろうか。(はばたく群馬の指導プラン②「なぜ・どうして型」)		
追究する	ステップ2	事実を捉えることができる資料 地図：世界で活躍した人々の世界地図 年表：野口英世、北里柴三郎、志賀潔、新渡戸稲造 教科書資料集	○資料活用能力を育て、理解を深めるために、資料を基に各自で調べた後、友達とジグソー学習の場を取り入れる。	②五つの予想について調べていこう。 世界で活躍した日本人について調べよう。
		事実を捉えることができる資料 年表：条約改正年表、陸奥宗光年表 風刺画：ノルマントン号事件、猿まね TV教材：NHK for school「不平等条約の締結(2:08)」「治外法権の撤廃(2:54)」	○教師が提示した資料を基に、一斉に行う調べ学習の場を取り入れる。 ○資料に書き込んだり、後でノートを振り返ったりすることができるように、条約改正年表、風刺画をノートに貼るよう指示する。 ○理解しやすくするために、難しい内容である不平等条約についてはテレビ教材を活用していく。	③どのようにして「外国人を裁けない」という不平等条約をなくすことができたのだろうか。
		事実を捉えることができる資料 年表：条約改正年表 地図：朝鮮をめぐる日本、ロシア、中国の関係を描いた絵 表：日清・日露戦争の比較の表 TV教材：NHK for school「日露戦争(2:08)」	○教師が提示した資料を基に、一斉に行う調べ学習の場を取り入れる。 ○資料に書き込んだり、後でノートを振り返ったりすることができるように、年表、風刺画をノートに貼るよう指示する。 ○当時の映像から歴史を実感できるように、テレビ教材を活用する。	④日清戦争と日露戦争について調べよう。
		事実を捉えることができる資料 年表：条約改正年表、小村寿太郎年表 地図：日清・日露戦争後の日本の領土 地図：日露戦争後の世界の領土 TV教材：NHK for school「小村寿太郎(1:24)」	○教師が提示した資料を基に、一斉に行う調べ学習の場を取り入れる。 ○資料に書き込んだり、後でノートを振り返ったりすることができるように、日清・日露戦争後の日本の領土の地図をノートに貼るよう指示する。 ○当時の映像から歴史を実感することができるようにテレビ教材を活用する。	⑤どのようにして不平等条約の改正が達成されたのだろうか。
		既習内容を揺さぶることができる資料 写真：朝鮮での日本語の授業（戦争に勝利と韓国併合を対比） 教材：NHK for school「君死にたまふことなかれ(1:25)」(戦争に勝利と対比)	○教師が提示した資料を基に、一斉に行う調べ学習の場を取り入れる。 ○戦争の勝利を多面的・多角的に考えることができるように、韓国併合と与謝野晶子の詩を提示する。 ○当時の映像を通して歴史を実感することができるように、写真やテレビ教材を活用する。	
		事実を捉えることができる資料 教科書：明治時代の工場や労働者数のグラフと輸出入の推移のグラフ グラフ：日清戦争で得た賠償金の内訳 TV教材：NHK for school「官営富岡製糸場(1:26)」「官営八幡製鉄所(1:01)」	○教師が提示した資料を基に、一斉に行う調べ学習の場を取り入れる。 ○当時の映像を通して歴史を実感することができるように、テレビ教材を活用する。	⑥明治時代の産業の発展について調べよう。

ステップ 2 	既習内容を揺さぶることができる資料	TV 教材：NHK for school 「民営紡績工場 (1:52) (産業の発展と対比) グラフ：工女の日課表 (産業の発展と対比) TV 教材：NHK for school 「足尾鉍毒事件 (1:20) (産業の発展と対比)	○教師が提示した資料を基に、一斉に調べ学習をする。 ○資料に書き込んだり、後でノートを振り返ったりすることができるように、工女の日課表をノートに貼るように指示をする。 ○当時の映像を通して歴史を実感することができるように、テレビ教材を活用する。		
	ステップ 3 考え・まとめる 	既習内容を深化・発展することができる資料	実物：カレー、東郷ビール、肉じゃが (東郷平八郎と現在) 写真：憲法 9 条ノーベル賞候補の新聞記事 (与謝野晶子と現在) 写真：労働時間適正化キャンペーンのポスター (工女の生活と現在) 写真：自動車の組み立て工場 (産業の発展と現在) 写真：足尾の植林 (足尾鉍毒事件と現在) 写真：韓国料理 (韓国併合と現在) 写真：野口英世の切手 (世界で活躍した人と現在) 実物：野口英世の千円札 新渡戸稲造の五千円札 (世界で活躍した人と現在)	○追究する過程までの資料を基に単元を貫く課題の答えをまとめる。 ○学習した歴史と現在とのつながりを考えるために、各自で考えた後、グループの友達と交流し、全体で共有する。 ○教師が提示した「既習内容を深化・発展することができる資料」を基に、一斉に調べ学習をする。 ○歴史を実感できるように、食べ物やお札など可能な範囲で実物を用意する。 ○歴史的事象と現在との生活とのつながりを身近に感じることができるよう、児童の生活に即した資料を優先して取り上げる。 ○歴史的事象と現在及び将来の発展とのつながりを考えることができる資料として『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に考えた事実が、現在の生活の改善へとつながっていることを考えやすい資料を多く取り上げる。	⑦ 学習したことと現在とのつながりについて考えよう。
		全部の資料		○ノートを振り返ることができるように第 7 時に提示した資料を印刷して配付し、ノートに貼るように指示をする。 ○新聞を作る際、単元の全部の資料を振り返ることができるように、ノートや教科書、資料集を参考にするように伝える。	⑧⑨ 学習したことを新聞にまとめよう。

**【歴史的事象の意味をより広い視野から考えることができた姿】**

○新聞を通して、単元を貫く課題の答えが、明治時代に大きな役割や影響を与えていることを考えることができた姿

- ・日清戦争の勝利で得た賠償金を資金として武器をつくる工場ができるなどして工場や労働者が増えたことにより、輸出入も増え、工業が発展し、日本は外国から認められた。
- ・工女さんが苦しい思いをしながら毎日働いてくれたから日本は世界に認めてもらえた。
- ・陸奥宗光さんと小村寿太郎さんが頑張ってくれたおかげで不平等条約の全てが改正されたと思う。
- ・戦争で日本が勝ち、外国から認められたのはうれいけれど、戦争で悲しい思いをしている人がいたことが分かった。与謝野晶子さんが戦争反対の歌を発表したことで、与謝野さんと同じ思いの人は勇気付けられたらうな。

○新聞を通して、学習したことと現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができた姿

- ・日清戦争と日露戦争に勝利したから今の日本の広さがあり、形があると思った。
- ・条約が改正されていなかったら今の日本は外国から差別されていたかもしれません。陸奥さんと小村さんは今の日本のキーマンだ。わたしも陸奥さん、小村さんのように頑張ります。
- ・工女さんはあんなに働いていたら死んじゃう。その代わりに今、桐生織がある。大事にしたい。
- ・足尾の事件は、住んでいる所が近いから学べてよかった。今、渡良瀬川はきれいでよかった。これからも、きれいな川を守っていきたい。

## VI 研究の結果と考察

1 「つかむ」過程において、『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れることで、問題意識を持って単元を貫く課題を設定し、答えを予想することができたか

(1) 結果

### 第1時

第1回目の実践を受けて、第2回目の実践では、第1時において児童が疑問や驚きを持って単元を貫く課題を設定できるように、日本の評価が低いことが分かる資料と、評価が高いことが分かる資料という二種類の対比している内容の資料を提示した(図2)。



図2 単元を貫く課題を設定するための『疑問や驚きを持つことができる資料』

江戸時代末期に日本で活躍したイギリスの外交官オールコックは、児童には親しみの薄い人物である。しかし、単元を貫く課題を設定するためのキーパーソンと捉え、教師が演示してキーワードを黒板に貼っていくことにより、オールコックの印象が強くなるように努めた。さらに1905年のアメリカとドイツの新聞記者を演示することにより、当時の新聞記事にある日本に対する高い評価の印象が強くなるようにした。また、提示方法を工夫しながら、二種類の対比している内容の資料を提示できたことにより、江戸時代末期や明治時代初期と、明治時代後期の外国からの日本の評価の違いに疑問や驚きを持つことができた。その結果、「なぜ、日本は外国から認められるようになったのだろうか」という単元を貫く課題を児童から導くことができた。

第1時の後半、単元を貫く課題に対する予想を立てた。前時までの学習や、導入でのクイズ、本時に配付した「条約改正年表」、教科書や資料集を参考にしながら、全員の児童が予想を立てることができた。その後、各自で考えた単元を貫く課題に対する答えの予想を基に、学級全体で五つの予想にまとめることができた(表2、図3)。

表2 第1時、単元を貫く課題に対して、答えを児童が予想している場面の授業の様子

- T : どんな予想を立てたのか、隣の人に知らせましょう。  
T : みんなで、発表し合ひましょう。  
S 1 : 大日本帝国憲法という立派な憲法がつくられたからだと思う。  
T : 立派な憲法?  
S 2 : 授業で習った。ドイツの憲法を手本にした。  
T : 誰がつくったの?  
全 : 伊藤博文。  
S 3 : 岩倉使節団が頑張り、外国に日本をアピールしたからだと思う。  
S 4 : 年表に二回戦争が書いてある。この戦争に勝って日本が強くなったからだと思う。  
T : 二つの戦争に勝ったの?  
S 4 : たぶん。  
S 5 : 年表に不平等条約改正達成とある。これが理由だと思う。  
S 6 : 官営工場ができて、産業が発展したから。  
S 7 : 富岡製糸場ができて、工業が発展したから。  
T : ほかにありますか。  
T : 次回から、みんなから出た「大日本帝国憲法がつくられたから」「岩倉使節団が頑張ったから」「戦争に勝ったから」「不平等条約が改正したから」「産業が発展したから」の五つの予想について学習し、予想が正しいか考えていきましょう。

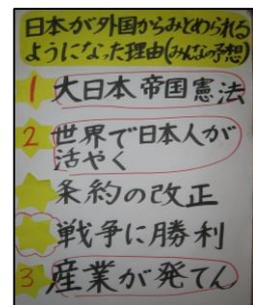


図3 五つの予想

## (2) 考察

「つかむ」過程で、単元を貫く課題を設定するために扱う『疑問や驚きを持つことができる資料』には、比較する資料のギャップが大きいほど疑問や驚きを持つことができると分かった。本時では、単元を貫く課題を児童から導くことができた。今回、児童に親しみの薄い人物を取り上げたため、身近に感じることができるよう、人物を教師が演示する方法を取った。このことにより、オールコックを第6時に、アメリカとドイツの新聞記者を第4時においても演示し、既習事項と比較・関連付けて学習することができた。「考え・まとめる」過程に制作した新聞には、オールコックや新聞記者を入れて、自分の考えをまとめている児童がいた。したがって、単元を通して児童の考える力を育てていくためには、児童が問題意識を持って単元を貫く課題を設定することが重要である。今回、単元を貫く課題を設定し、答えを予想するために取り入れた『疑問や驚きを持つことができる資料』として、ギャップの大きい対比する内容の二種類の資料を提示したことは有効であった。児童アンケートによると、第2回目のアンケートでは、第1回目と比較すると、問題意識を持って学習をしている児童が増えている(図4)。これらのことから、今回の授業実践で取り入れた『疑問や驚きを持つことができる資料』は、児童が疑問や驚きから問題意識を持って単元を貫く課題を設定し、答えを予想するために有効であったと考える。

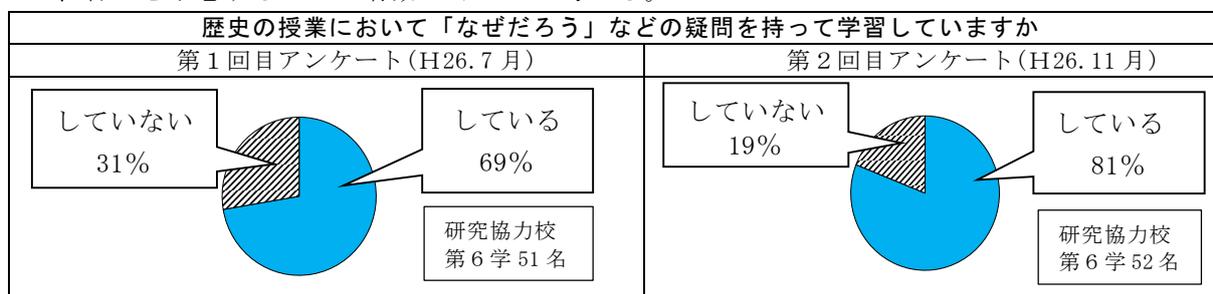


図4 児童アンケートの結果

2 「追究する」過程において、前半、『事実を捉えることができる資料』を、後半、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れることで、歴史的事象についてその時代に与えた役割や影響を考えることができたか

### (1) 結果

「追究する」過程では、各自で考えた単元を貫く課題に対する答えの予想を基に、学級全体で五つの予想にまとめたものを、資料を基に検証していった。五つの予想とは「①憲法がつけられたから」「②岩倉使節団が頑張り、世界で活躍したから」「③不平等条約を改正したから」「④戦争に勝利したから」「⑤産業が発展したから」であった。この予想を検証する際、④と⑤について多面的・多角的に考えていくため、「追究する」過程の後半に置き、徐々に考えが持てるように計画した。

### 第2時

#### 学習課題「世界で活躍した日本人について調べよう」

まず、①の予想「憲法がつけられたから」については、前小単元「明治の国づくりを進めた人々」で学習していたため、教科書や資料集で事実を確認し、予想の正しさを検証した。次に、②の予想「岩倉使節団が頑張り、世界で活躍したから」について検証した。岩倉使節団については既習の内容であるため、教科書や資料集で復習をした。その際、岩倉使節団は世界から学んだことを日本に伝達し、日本の発展のために活躍をしたが、日本のことをアピールできず、不平等条約の改正を果たせなかったことを確認した。そして、同行した留学生である津田梅子のアメリカでの活躍に注目した後、「津田梅子のほかに世界で活躍をした人がいだろうか」との教師の投げ掛けにより、教科書や資料集を基に調べた結果、野口英世、志賀潔、北里柴三郎、新渡戸稲造が挙げられた。そこで、「世界で活躍した日本人について調べよう」という学習課題を立て、四人について、『事実を捉えることができる資料』を活用して、調べ学習を行った。抽出児童の振り返りには、調べ学習や友達と

交流したことにより、四人の世界的な活躍を知ることができ、四人の活躍が世界から認められる理由の一つであることが分かったと記されていた(表3)。

**第3時**

**学習課題「どのようにして外国人を裁けないという不平等条約を改正できたのだろうか」**

予想③「不平等条約を改正したから」のうち陸奥宗光の働きにより領事裁判権が撤廃されたことを『事実を捉えることができる資料』を基に検証する学習を行った。初めに「条約改正年表」から領事裁判権が撤廃されるまでの日本の努力を概観した。次に、「鹿鳴館での舞踏会」「ノルマントン号事件を描いたビゴアの風刺画」から、日本が努力しても外国から認められなかった時期があったことを知ることができた。そして、「NHK for school：治外法権の撤廃」を活用し、陸奥宗光の働きにより、領事裁判権が撤廃されたことを学習した。さらに、教師が提示した「陸奥宗光の年表」と「陸奥宗光の名言」から、陸奥宗光の思いや願いを考えることができた。抽出児童の学習の振り返りの記述を見ると、陸奥宗光の業績により、領事裁判権が撤廃されたことを捉えることができた(表3)。

**第4時**

**学習課題「日清戦争と日露戦争について調べよう」**

「戦争に勝利したから」の予想を検証した。『事実を捉えることができる資料』として、「条約改正年表」を基に、明治時代に日清・日露戦争があったことを確認し、「日清戦争前の朝鮮をめぐる日本・ロシア・中国のビゴアの風刺画」「朝鮮・中国・日本・ロシアの地図」「日清・日露戦争比べの表」を活用した。また、歴史を実感できるように当時の戦争や、東郷平八郎の映像を視聴するために、「NHK for school：日露戦争」を活用した。これらの資料から、日清・日露戦争に勝利したことにより、外国から認められるようになったことを捉えることができ、抽出児童の振り返りの記述のように、東郷平八郎の業績の大きさや明治時代に与えた役割を考えることができた(表3)。さらに、授業の最後に、インドのネール首相の「日本がロシアに勝ったことを励みにインドも独立のために頑張りたい」という言葉を教師から聞いたことにより、日本が外国から認められるように

**表3 『事実を捉えることができる資料』を活用した授業の抽出児童の振り返りの記述**

第二時	(世界に活躍した日本人を調べようの振り返り) A：最初は、日本は弱くて発展していないと言われていたけれど、岩倉使節団と一緒に外国に行った津田梅子さんや野口英世さんのおかげで外国に認められてすごいなと思った。 B：世界で活躍する人々がこれほど多いとは思わなかった。野口さんが今いたら、エボラ出血熱の研究をしたいと思います。 C：私は、世界で活躍した日本人は日本の誇りであり、尊敬者だと思った。
第三時	(どのようにして外国人を裁けないという条約を改正できたのかの振り返り) A：陸奥宗光は外務大臣になってイギリスに協力するかわりに治外法権を撤廃してもらった。頭を使って「外国人を裁けない」という条約を改正した。これにより外国から認められるようになった。 B：陸奥宗光は、イギリスに協力する条件として不平等条約を一部改正できた。これにより、外国から認められた。 C：陸奥宗光は、イギリスがロシアと戦う時、イギリスに協力するかわりに「外国人を裁けない」という条約を改正した。これにより、外国から認められた。
第四時	(日清戦争と日露戦争について調べようの振り返り) A：日清戦争と日露戦争に勝って外国から認められた。世界で一番強いと言われていたバルチック艦隊を倒した。日本はすごく強くなって外国からも認められるようになった。 B：日本は、日清戦争・日露戦争に勝ち、バルチック艦隊を破って世界中を驚かせ、外国に認められるようになった。世界一のバルチック艦隊を破ったのはすごいなと思います。 C：日清戦争や日露戦争では活躍した人がいたからロシアや中国に勝つことができた。この活躍により、外国から認められるようになった。特に、日露戦争での東郷平八郎の活躍があったからだと思った。
第五時	(小村寿太郎になり、陸奥宗光への手紙) A：陸奥先輩が、言ってくれたように関税自主権を取り戻すことができました。先輩のおかげで、参事になれて不平等条約を直すことができました。ありがとうございました。 B：陸奥先輩、不平等条約を改正できましたよ。これで日本の景気が良くなります。先輩に参事を勧められていなかったら、凡人だったから本当に感謝しています。日露戦争で東郷さんが活躍したからうまくいったので、これで日本が強いことが証明できましたよ。 C：陸奥先輩、関税自主権に成功しましたよ。これで外国から認められるようになると思います。
第六時	(オールコックに産業の発展をアピールする手紙) A：日清・日露戦争でも日本は勝って外国との貿易も盛んになりました。武器も造れています。だから、日本をばかにしないでください。 B：オールコックさん、昔さん言われたけれど、日清戦争の賠償金を効率よく使って外国から信用されましたよ。 C：日本はすばらしいです。なぜなら、生糸などの産業が発展しているからです。プラボー。

なったことを意識できた。

### 第5時

#### 学習課題「どのようにして、不平等条約の改正が達成されたのだろうか」

前半、『事実を捉えることができる資料』として、「条約改正年表」から日露戦争後に不平等条約が完全に改正されたことを確認し、「日清・日露戦争後の日本の領土の広がり地図」「当時の世界地図」から植民地を増やしていった時代であることを捉えた。その後、小村寿太郎の活躍を実感を持って知ることができるように、「NHK for school：小村寿太郎」を視聴した。まとめとして、小村寿太郎から陸奥宗光へ手紙を書いた(14 ページ表 3)。後半、『既習内容を揺さぶることができる資料』として、「NHK for school：君死にたまふことなかれ」を視聴した後、与謝野晶子へ手紙を書いた。抽出児童は、戦争に勝利したことについて多面的・多角的に考えることができていた(表 4)。

表 4 第5時『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用後の抽出児童の振り返りの記述

抽出児童 A	抽出児童 B	抽出児童 C
晶子さん、戦争は人を殺すからとてもいやなことと分かっている反対の意を示したのはすごいと思います。私も、戦争に反対します。	韓国人のほかに日本のしたことに対して反対する人がいるのは、当時は反発されたと思うけれど、今、自分は戦争をしたくありません。	晶子さん、あなたは戦争をやめてほしかったのですね。私も同じ気持ちです。でも、これからも頑張ってください。

### 第6時

#### 学習課題「明治時代の産業の発展について調べよう」

前半、単元を貫く課題の答えの予想「産業が発展したから」について、『事実を捉えることができる資料』を基に検証した。「明治時代の工場や労働者の数のグラフ」と「輸出入の推移のグラフ」を、また、「日清戦争で得た賠償金の内訳」と「官営八幡製鉄所」を比較・関連付け、産業が発展したことの理由やその時代に果たした役割を考えることができた。八幡製鉄所については、歴史を実感できるように「NHK for school：官営八幡製鉄所」を視聴した。産業の発展について捉えた後、このことにより、日本が国際的に認められるようになったことを、第1時で登場したオールコックへの手紙にまとめた。抽出児童は、産業が発展したことの根拠を入れながらまとめていた(14 ページ表 3)。後半、産業の発展を多面的・多角的に考えるために、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れた。「工女の日課表」や「NHK for school：民営紡績工場」「NHK for school：足尾鉍毒事件」を活用して労働問題や環境問題について考えた。『事実を捉えることができる資料』『既習事項を揺さぶることができる資料』を比較・関連付けることで、下線のように、産業が発展したことを多面的・多角的に考えることができた(表 5)。その後、工女に手紙を書く活動を行い、下線のように、工女の苦労と現在の生活とのつながりを考えた(16 ページ表 6)。

表 5 第6時において、産業の発展と工女の苦しい生活を比較・関連付ける場面の授業の様子

T : 教科書 115 ページの帯グラフの表題は？ S1 : 主要な生産品目の推移、1882 年と 1899 年。 T : この間に何ががあった？ 全 : 日清戦争。 T : 輸入に注目、どんなことが分かる？ S2 : 1899 年の方が二億円増えている。 S3 : 1899 年に機械類、鉄類が加わった。 S4 : 機械や鉄はどんなことに使われる？ 各 : 工場、武器。 S4 : 今見たテレビの八幡製鉄所で鉄をつくっていた。 T : 輸出に注目。どんなことが分かる？ S5 : 生糸が一番。 S6 : 1899 年総額が二億円増えている。 T : 輸出入が増えたということは？ S7 : 貿易がさかん、お金持ち。	S 8 : 工業が発展。 S 9 : 外国と仲良しでないと貿易は増えない。 S10 : 日本が外国といい関係 T : オールコックさんに手紙を書こう。 T : 外国への輸出一番は？ S12 : 生糸。 T : 資料を配付します(工女の日課表配付)。 T : 生糸を作っている製糸場の工女さんの日課表です。15 才位の女子が働いていました。 S13 : 15 時間働いている。 S14 : 遊ぶ時間がない。 <u>こんなに働かないと生糸を輸出できないのか。</u> S15 : 工女さんはどんな気持ちで働いていたのかな？ S17 : 遊びたいけど、 <u>武器を買うために頑張る。</u> T : 工女さんに手紙を書こう。
--	--

注：下線は、産業の発展を多面的・多角的に考えることができた場面

表6 第6時の『既習内容を揺さぶることができる資料』を活用しての振り返りの記述

工女さんに手紙を書こう

・工女さん、毎日15時間以上のお仕事お疲れさまでした。今の世の中は、15時間も仕事をしはいけないんです。これから私は、工女さんたちにはかなわないけど、仕事を頑張りたいと思いました。

・工女さん、たくさん働いてくれてありがとうございました。10代くらいの女の子だったら働かないでもっとやりたいことをやっているのに、昔は戦争のために女の人まで働かされてこんなことがあったのかと驚きました。でも、工女さんたちが働いてくれていたことは、日本の産業が発展していくのに大切だったと思うので、今の日本はあなたたちがつくってくれたのだと思います。

注：下線は工女の苦勞と現在の生活とのつながりを考えている記述

(2) 考察

1回目の授業実践を通して学んだことを基に、予想を検証し、事実を明らかにするための『事実を捉えることができる資料』には、歴史を実感できるように、当時の映像や写真を多く取り入れたり、先人の思いや願いを感じることができる、現在に残る名言やエピソードなどを取り上げたりした。これにより、日本の国際的地位の向上のために先人が行ったことが、明治時代に与えた役割や影響を考えることができた。また、1回目の実践から学んだ、『事実を捉えることができる資料』から捉えた事実を揺さぶる場面を多く設定した。具体的には、日清、日露戦争の勝利と産業の発展について、『既習内容を揺さぶることができる資料』を取り入れる場面を四場面設定し、資料を比較・関連付けることにより、それぞれの歴史的事象を多面的・多角的に考えた。このことにより、『事実を捉えることができる資料』から明らかになった事実が揺さぶられ、多面的・多角的に考えることができた。したがって、日本が外国に認められるために努力してきたことが、明治時代に与えた役割や影響を考えることができた。

3 「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』を取り入れることで、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができたか

(1) 結果

第7時

学習課題「学習したことと現在の生活とのつながりを考えよう」

単元を貫く課題の答えを検証した後、学習したことと現在の生活とのつながりについて考えた。まず、各自で考えた後、グループでの話し合いを通して友達と考え、それをホワイトボードに記入し、全体で交流した(図5)。その後、『既習内容を深化・発展することができる資料』をまとめたプレゼンテーションを見ながら学習したことと、どのようなつながりがあるか全員で考えた。その資料には食べ物など児童に身近なもののほか、1回目の授業実践での反省を基に「追究する」過程で学習したことと、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えるための資料は何か考えた。その資料には、先人の願いや努力が、現在の生活の改善につながっていると子どもたちが考えやすいものを資料に選ぶこととした。例えば、足尾の環境を守るために、子どもたちが行っている足尾の山の植林活動の写真を紹介し、自分と同じ子どもたちも努力していることに気付かせ、自分と重ねて考えられるようにした。抽出児童の振り返りの記述から、下線のように、学んだ歴史と現在の生活とのつながりや、現在及び将

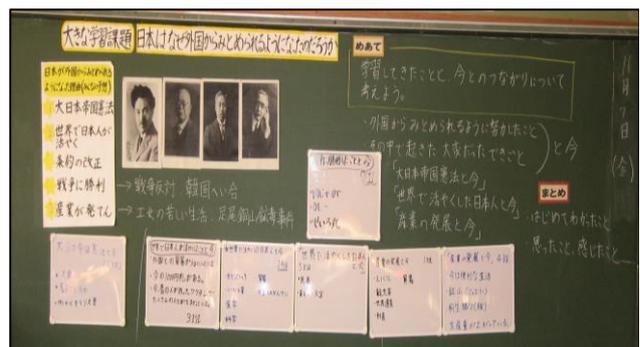


図5 授業の様子

来の生活の発展とのつながりを考えていた(表7)。

表7 第7時の抽出児童の振り返りの記述

抽出児童A	抽出児童B	抽出児童C
昔なんて全然知らなかったけれど、 <u>身近な物でも昔からあった物があってびっくりした。昔の人のおかげで今の日本があるんだと思った。物を大切にしないかやと思った。</u>	明治時代にはこれほど多くの人々が活躍して、発展していったんだなあと思いました。でも、その裏には労働問題や公害といった試練もありました。 <u>今、労働時間に気を付けていたり、渡良瀬川や足尾をみんなで守っているのは、そういう歴史があったことによると思いました。</u>	私は、「戦争をしてはいけない」という日本の憲法を初めて知りました。 <u>このことは、世界の国と仲良くしていく上で大切だと思いました。このことを晶子さんに知らせてあげたいです。私も友達と仲良くしたり、世界の人たちとも仲良くしたりしていきたいです。</u>

注： 下線は、歴史的事象と現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展に生かすことを考えている記述

### 第8、9時

#### 学習課題「学習したことを新聞にまとめよう」

単元のまとめの新聞のトップ記事には、単元を貫く課題の答えを、2番記事にはその答えと現在の生活とのつながりや、現在及び将来の生活の発展とのつながりについての考えをまとめた。新聞を制作する際、授業で活用した資料を根拠に考えるために、ノートや教科書、資料集を使った(図6)。制作した新聞から、抽出児童は、事象について明治時代に与えた役割や影響、現在の生活とのつながり、現在及び将来の生活の発展とのつながりも考えられた(18ページ表8)。

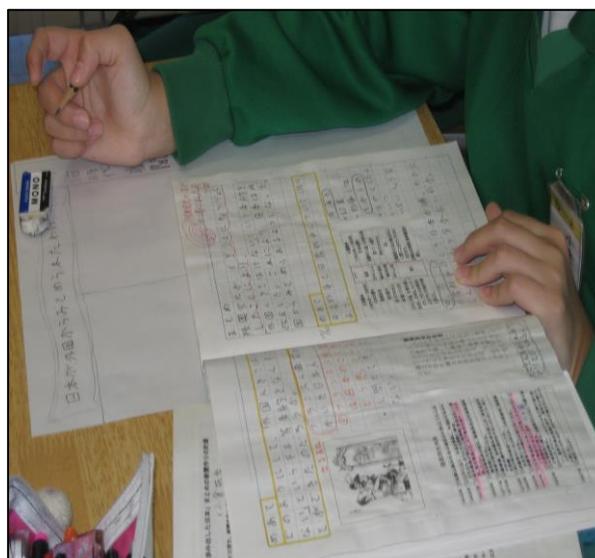


図6 ノートを振り返り、新聞を制作している様子

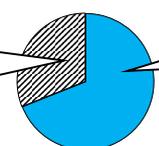
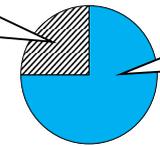
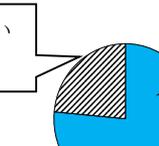
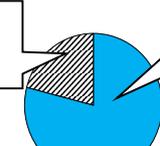
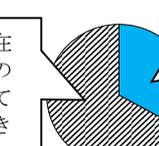
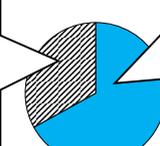
#### (2) 考察

まとめの新聞では、1回目の実践である「戦国の世から江戸の世へ」のポスターと比較して歴史的な事象がその時代に与えた役割や影響、現在の生活とのつながりや現在及び将来の生活の発展とのつながりについて、より考えを持っている記述が多く見られた。抽出児童においては、これらの全ての内容についての記述が見られ、考えが育っていったことがうかがわれた。その理由は、『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に多面的・多角的に考えることができたことにより、『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、先人の願いや努力が現在の生活の改善へとつながっていると考えることができたからだと考える。また、授業ノートを振り返り、学習した資料を活用して、根拠を示して考えている児童も多かったことも理由だと考える。したがって、単元を終えて、歴史的な事象の意味をより広い視野から考える力が育ったと考えられる。第2回目のアンケートを児童に取った結果、第1回目のアンケートと比較すると、どの項目も数値が上昇していた(19、20ページ図20)。「歴史の授業で学んだことは、現在及び将来の生活に役立つと思うか」の質問について「役立つと思う」と答えた割合が1回目よりもわずか3%増加しただけであったが、「役立つ」を選んだ理由を見ると、1回目は歴史的な事象と現在や将来の発展に生かすことを考えている児童が少なかったことに比べて、2回目はそれらを考えている児童が大幅に増えていた。このことから、歴史的な事象の意味をより広い視野から考える力が育ったと考える。したがって、単元を終えて歴史的な事象の意味をより広い視野から考える力が育ったと考えられる。

表 8 抽出児童における新聞の中の主題に関わる記述

抽出児童 A	抽出児童 B	抽出児童 C
<p>歴史的な事象が明治時代に与えた役割や影響を考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日清、日露戦争の勝利が、日本の国際的地位の向上に与えた役割を考えている。</li> <li>・戦争の勝利が、明治時代の工業の発展に与えた役割を考えている。</li> <li>・工業の発展が、日本の国際的地位の向上に与えた役割を考えている。</li> <li>・工女の労働が明治時代の工業の発展に与えた役割を考えている。</li> <li>・戦争に反対していた与謝野晶子が、明治時代に与えた影響を考えている。</li> </ul>	<p>歴史的な事象が明治時代に与えた役割や影響を考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸奥宗光、東郷平八郎の活躍が、日清、日露戦争の勝利に与えた役割と小村寿太郎の活躍が、関税自主権の回復に与えた役割を考えられている。</li> <li>・戦争の勝利が、明治時代の工業の発展に与えた役割を考えられている。</li> <li>・産業の発展の裏で起きていた工女の過酷な労働が、労働問題につながったことを考えている。</li> <li>・日本の日露戦争の勝利を韓国の人々の立場で考えたことにより、戦争が韓国に与えた影響を考えている。</li> </ul>	<p>歴史的な事象が明治時代に与えた役割や影響を考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で活躍した野口英世、北里柴三郎、志賀潔の三人が、医学界に貢献したとの記述から、明治時代に与えた役割を考えている。</li> </ul>
<p>(分析)</p> <p>『事実を捉えることができる資料』『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、戦争の勝利や産業の発展が、明治時代に与えた役割や影響を、多面的・多角的に考察することができている。</p>	<p>(分析)</p> <p>『事実を捉えることができる資料』『既習内容を揺さぶることができる資料』を基に、戦争の勝利や産業の発展が、明治時代に与えた役割や影響を、多面的・多角的に考察することができている。</p>	<p>(分析)</p> <p>『事実を捉えることができる資料』を基に、国際的に活躍した野口英世、北里柴三郎、志賀潔が、明治時代に与えた役割や影響を考察することができている。</p>
<p>歴史的な事象と現在の生活とのつながりを考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東郷平八郎により、現在肉じゃががあると、東郷平八郎と現在の生活とのつながりを考えられている。</li> <li>・明治時代に工業が発展したことにより、現在産業が発展し、外国と良好な関係にあると、明治時代の工業の発展と現在の生活とのつながりを考えている。</li> <li>・工女の苦しい生活により現在労働条件が改善されたと、明治時代の工女と現在の労働者をつなげて考えている。</li> </ul>	<p>歴史的な事象と現在の生活とのつながりを考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争に反対していた与謝野晶子の思いが、現在の日本国憲法の「戦争をしない」ということにつながっていると考えられている。</li> </ul>	<p>歴史的な事象と現在の生活とのつながりを考察することができたか</p> <p>○考察することができた記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業が発展していた時期に足尾鉍毒事件が発生したが、田中正造の努力のおかげで現在公害が起きずに、渡良瀬川では釣りを楽しめているとの記述から、鉍毒事件と現在の生活とのつながりを考えられている。</li> <li>・明治時代の産業の発展のおかげで、現在産業が発展しているとの記述から、現在の生活とのつながりを考えられている。</li> </ul>
<p>(分析)</p> <p>「追究する」過程で学んだ歴史を基に、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して現在とのつながりを考えたことにより、明治時代からの肉じゃがや工業の発展と、現在の生活とのつながりを考察することができている。</p>	<p>(分析)</p> <p>「追究する」過程で学んだ歴史を基に、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して現在とのつながりを考えたことにより、戦争に反対していた与謝野晶子と、現在の生活とのつながりを考察することができている。</p>	<p>(分析)</p> <p>「追究する」過程で学んだ歴史を基に、『既習内容を深化・発展することができる資料』を活用して現在とのつながりを考えたことにより、明治時代の産業の発展と足尾鉍毒事件と、現在の生活とのつながりを考察することができている。</p>

<p>歴史的事象と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</p> <p>○考えることができた記述</p> <p>・工女が苦しい条件で働いていたことにより、現在労働条件が改善されていると考えられている。</p>	<p>歴史的事象と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</p> <p>○考えることができた記述</p> <p>・戦争に反対していた与謝野晶子の思いが、現在の日本国憲法の「戦争をしない」ということにつながっていると考えられている。</p>	<p>歴史的事象と、現在及び将来の生活の発展とのつながりを考えることができたか</p> <p>○考えることができた記述</p> <p>・田中正造が足尾鉍毒事件に立ち向かい、公害が起きなくなったので、これからは公害が起らないようにしてほしいとの記述から、将来の生活の発展とつなげて考えられている。</p> <p>・医者を目指している妹には、野口英世、北里柴三郎、志賀潔のように世界で活躍して日本や世界で医学界に貢献できる人になってほしいとの記述から、将来の生活の発展へとつなげて考えられている。</p>
<p>(分析)</p> <p>『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、劣悪な労働条件で働いていた工女の歴史が、現在のよりよい労働条件の改善へとつながっていると考えられている。</p>	<p>(分析)</p> <p>『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、戦争に反対した与謝野晶子の思いが、現在の日本国憲法の第9条につながり、現在及び将来の生活への発展へとつながっていると考えられている。</p>	<p>(分析)</p> <p>『既習内容を深化・発展することができる資料』を基に、田中正造の努力が、現在及び将来のよりよい環境に向けての運動につながっていると考えられている。また、明治時代に医学の分野で活躍した三人を手本に、妹にも将来活躍してほしいと、将来の生活の発展とのつながりを考えられている。</p>

<p>歴史の授業において絵図、写真、地図、グラフ、年表などの資料から読み取ったことを基に、自分の考えを持つことができますか。</p>			
<p>第1回目アンケート(H26.7月)</p>		<p>第2回目アンケート(H26.11月)</p>	
<p>できない 31%</p>  <p>できる 69%</p> <p>研究協力校 第6学年 51名</p>		<p>できない 25%</p>  <p>できる 75%</p> <p>研究協力校 第6学年 52名</p>	
<p>歴史の授業で学んだことは、現在及び将来に役立つと思いますか。</p>			
<p>第1回目アンケート(H26.7月)</p>		<p>第2回目アンケート(H26.11月)</p>	
<p>役立つと思わない 24%</p>  <p>役立つと思う 76%</p> <p>研究協力校 第6学年 51名</p>		<p>役立つと思わない 21%</p>  <p>役立つと思う 79%</p> <p>研究協力校 第6学年 52名</p>	
<p>「役立つと思う」を選んだ理由の記述について</p>			
<p>第1回目アンケート(H26.7月)</p>		<p>第2回目アンケート(H26.11月)</p>	
<p>歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えることができなかった児童 67%</p>  <p>歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えることができた児童 33%</p> <p>研究協力校 第6学年 51名</p>		<p>歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えることができなかった児童 32%</p>  <p>歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えることができた児童 68%</p> <p>研究協力校 第6学年 52名</p>	
<p>「歴史の授業で学んだことは、現在及び将来に役立つと思いますか」の記述</p>			
<p>1回目アンケート 26年7月</p>	<p>抽出児童A</p> <p>役立つと思う。(理由) 歴史が分からない人に教えてあげられそうだから。</p>	<p>抽出児童B</p> <p>役立つと思わないと思う。(理由) 未来は変わるので、昔のことを学ばなくてもいいと思うから。</p>	<p>抽出児童C</p> <p>役立つと思う。(理由) 史跡を見に行った時、詳しく知ることができるから。</p>

2回目アンケート 26年11月	役立つと思う。 (理由) 歴史上の人を見習うようなときがあるかもしれないから。	役立つと思う。 (理由) 成人になったときのために多くの知識を得ておきたいから。	役立つと思う。 (理由) 現在があるのも昔の人のおかげと伝えられるから。
アンケート分析	1回目は一面的な考えであるが、2回目は、歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えられている。	1回目は、歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えられていないが、2回目は、考えられている。	1回目は一面的な考えであるが、2回目は、歴史的事象を現在及び将来の生活の発展へとつなげて考えられている。

図 20 児童アンケートの結果

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れたことは、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることに有効であった。

- (1) 「つかむ」過程で、単元を貫く課題を設定して答えを予想するために、既習の資料と、それとはギャップの大きい対比する資料である『疑問や驚きを持つことができる資料』を取り入れたことにより、児童が問題意識を持って単元を貫く課題を設定でき、答えを予想することができた。
- (2) 「追究する」過程において、前半は『事実を捉えることができる資料』を、後半は『既習内容を揺さぶることができる資料』をというように、前半から後半へとより考えを持てるように二段階に資料を複数回提示したことにより、歴史的事象についてその時代に与えた役割や影響について考えることができた。
- (3) 「考え・まとめる」過程において、『既習内容を深化・発展することができる資料』として、児童にとって身近な物を優先して取り上げたり、先人の願いや努力が現在及び将来の生活の改善へとつなげて考えられるような資料を意識して取り上げたりしたことにより、歴史的事象について、現在及び将来の生活とつながりを持って考えることができ、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができた。

### 2 課題

- (1) 「追究する」過程において、児童の考える力を育てるために、教師と児童とのやり取りだけでなく、友達と交流する場や、考えを表現する活動の場を授業の中に取り入れることも重要である。
- (2) 児童が主体的に考えたり、考えたことを表現したりするために、資料を精選する必要がある。
- (3) 歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるために、『既習内容を深化・発展することができる資料』の中の現在及び将来の生活の発展へとつなげて考える力を育てるための資料にはどのようなものがよいか研究をする必要がある。

## Ⅷ よりよい実践に向けて

第6学年の他の小単元や中学校歴史分野において、問題解決的な学習過程に『ステップアップ型資料』を取り入れていくことにより、歴史的事象の意味をより広い視野から考える力を育てることができると考える。

### <参考文献>

・北 俊夫 著 『社会科学習問題づくりのアイデア』 明治図書(2004)

### <担当指導主事>

関 喜史 小林 旭